地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その83

文：田崎 敬修

幻と消えた柳津鉄道と軽便鉄道

岩越鉄道（現磐越西線）が大正３年(1914）に全線開通してから遅れること10余年、会津線（現只見線）が若松から只見方面に敷設されることが決定すると、野沢町はただならぬ危機感に包まれました。それまで岩越鉄道のおかげで人・物の流れが野沢町に集中していたのが一変するおそれがあるからです。そこで町は、坂下町にある郡役所・警察署・税務署への往来がしやすくなること、さらに、大山祇神社と柳津虚空蔵尊の両方を訪れる参詣者の利便性が高まることを理由に、柳津鉄道の野沢町延長の請願書を貴族院・衆議院などに幾度となく提出しました。大正15年（1926）11月の請願書には、「衆議院で３回、貴族院で１回請願が採択され、昨年９月に測量を終えたにもかかわらず、いまだにその実現を見ないことははなはだ遺憾です。すでに会津若松・坂下間は去る10月に開通し、坂下・柳津間の延長工事も着々と進んでおり、一両年を待たず開通するでしょう。野沢までの鉄道敷設延長が実現するまでこの請願を続けることは地方開発上、きわめて重要だからです」と、１日も早く着工するよう訴えています。野沢町の事務報告によると、この野沢町まで延長する柳津鉄道は昭和２年（1927）の鉄道会議では予定線となり、昭和３年(1928)には法案として提出されたそうです。ちなみに会津坂下－柳津間は昭和３年に開通します。昭和10年（1935）11月19日付けの福島民報の記事によると、柳津・野沢間の鉄道は実現が有望で路線奪取運動が始まったことを伝えています。しかし、野沢町の切なる願いも空しく、柳津鉄道はその実現を見ることなく終わったのでした。

▲柳津鉄道・軽便鉄道（軌道）ルート推測図

また大正10年（1921)、只見川水力電気株式会社が簡単な規格で安く作ることができる工事用の軽便鉄道（軌道）を野沢町と大沼郡沼沢村（現金山町）間に敷設する計画について、関係自治体・団体（野沢町・尾野本村外三ヶ村組合・下谷村→現西会津町、西方村（現三島町)、沼沢村・川口村組合・横田村組合（現金山町）と契約書を交わしました。この軽便鉄道は沼沢村を起点として野沢町外２ヶ村組合を終点とするものでしたが、この計画は所轄官庁の許可が下りなかったようで計画はいつの間にか消えてしまいました。この２つの鉄道ができていれば西会津町と只見川流域の町村との関係はより緊密になっていたと思います。ただ、利用度合いから廃線は免れなかったでしょう。

今月の表紙

今月は、2月2日に行われたこゆりこども園の豆まきから。感染症予防のためクラスごとに分かれて行われました。赤鬼が登場すると各教室から歓声？悲鳴？とともに「鬼は外！福は内！」の元気な声が聞こえてきました。

（4ページに関連記事）

編集後記

第34回雪国まつりの様子を撮影しに行きました。小雨が降る場面もありましたが、沖縄県大宜味村の児童によるエイサーが始まった途端、太陽が顔を出しました。（伊藤）

にしあいづ
広報にしあいづ №785　令和６年３月号
発行／福島県西会津町　編集／企画情報課　TEL 0241-45-2211（代表）
ホームページ　https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/
PRINTED WITH SOY INK
この広報紙は、環境に優しい大豆油インキを使用しています。